| 訓練対象時間帯 | シナリオ概要 | 検証ポイント |
| --- | --- | --- |
| フェーズ１  警戒期  〜発災直後 | ・●月日曜。大雨警報発表中。防災担当部署を中心に、日中から警戒に当たる。  ・夜半になり土砂災害警戒情報が発表され、管内を流れる河川水位が上昇。段階をあげて職員の動員を図るが、まだ職員数が限られる状態で気象情報等の収集・監視、現場への職員派遣や危険個所への対応判断、また住民からの問合せ電話への対応等に迫られる。  ・各種気象情報や前兆現象などの通報を受け、警戒レベル４の避難指示を発令する。  ・雨はさらに降り続き、土砂災害による生き埋め、避難が遅れた人の浸水地域での孤立など人命救助要請が多数入る。また、洪水・土砂災害からの避難には不適格な場所に避難者がいるとの情報もある。孤立地区の発生も懸念される。  ・大きな被害の発生を受けて、報道機関からの問合せも相次ぐ。 | ・初動体制の確立  ・職員の動員判断  ・重要情報の選別 （情報の優先度）  ・本部長への的確・迅速な具申・報告  ・適切な避難情報の発令及び避難誘導  ・住民からの膨大な問合せ電話への対応  ・迅速、明解かつ多様な手段による住民への情報発信  ・全庁的な情報共有  ・災害の全体像の把握（空白地区や孤立地区の発見）  ・外部機関への迅速な応援要請  ・適切な報道対応 |
| フェーズ２  災害発生  ２〜３日後 | ・死者は10名を超え、まだ捜索中の人もいる。  ・多くの住宅が損壊。開設した指定避難所には高齢者、障害者、乳幼児も含め多数の避難者がいる。  ・停電、断水、ガスの遮断が続き、在宅避難者も苦しい生活を余儀無くされている。  ・緊急消防援助隊、自衛隊、DMAT等の救援部隊や他市町村からの応援職員、ボランティアも各地から駆けつけている。プッシュ型の救援物資も次々と入ってきた。  ・連日の長時間の災害対応で多くの職員が疲弊。中には、被災した職員もいる。 | ・災害関連死対策  ・避難所対応  ・応急対策職員派遣制度に係る動き  ・他市町村等への人的支援要請及び受援準備・受入れ  ・プッシュ型の物的支援要請及び受援準備・受入  ・住民への迅速・的確な広報 |

洪水・土砂災害　シナリオ大枠